

区政 N O W ! (20年2月、3月合併号)

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

挨拶



4月は入学や入社などで新しい生活がスタートする季節、新しいことを始める季節であります。荒川区も4月には新しい予算がスタートします。区は、区民の幸せのために、今後とも自治体の常識に捕らわれない、先進的な新規の施策を実施し、人と人との結び付きを大切にする温かい地域社会を目指してまいりますので、区民の皆様のご支援、ご協力をお願いします。

コミュニティバス「さくら」100万人達成！

17年4月に運行を開始したコミュニティバス「さくら」の利用者数が、100万人に達しました。18年10月に50万人を達成してから、わずか1年3か月で達成しました。これも多くの皆様にご利用いただいたおかげです。

20年度には、汐入地区への路線の拡大を実施し、区民の皆様の利便性の向上を図ります。



ふるさと郷土芸能の祭典が開催されました

2月3日(日)にサンパール荒川でふるさと郷土芸能の祭典が行われました。

荒川区の交流都市7都市が郷土芸能を披露し、荒川区も江戸里神楽を披露しました。終演後は、交流都市の名産品が当たる福引が行われたほか、ふるさと市を開催し、交流都市の名産品や民芸品が展示販売されました。



千住大橋鉄橋化80周年記念

荒川区指定文化財である千住大橋の鉄橋化80周年に当たって、荒川ふるさと文化館では、「千住で一番 江戸で一番 千住大橋展」を2月9日から3月23日まで開催し、展示にあわせて、記念講演会や屋形船ツアー、千住大橋と松尾芭蕉についてのフォーラム、バスツアー、児童による子ども俳句相撲大会など様々なイベントも開かれ、多くの方々に参加していただきました。

日暮里・舎人ライナーが開業しました

3月30日に日暮里から足立区の舎人地区を結ぶ日暮里・舎人ライナーが開通しました。荒川区内には、日暮里駅、西日暮里駅、赤土小学校前駅、熊野前駅の4つの駅が出来ました。このライナーは、道路を立体的に利用した専用軌道上を走る、新交通システムとなっています。運賃は大人片道160円～320円です。



スイカ(JR)、パスモ(営団地下鉄)、シルバーパス(東京都)が利用できます。

主要事業

平成20年度の予算が決まりました。

主要な新規事業を紹介します。

(1) 法人立特別養護老人ホーム誘致事業

特別養護老人ホームの入所待機者の減少等を図るため、区有地に特別養護老人ホームを建設・運営する社会福祉法人を誘致します。

(2) あらかわNO(ノー)!メタボ大作戦事業

早世の減少を図るため、食生活、運動、飲酒、喫煙などの生活習慣の改善を働きかけ、メタボリック症候群を予防します。

(3) 妊婦健康診査公費負担事業

安心して子どもを産んでいただける環境を整えるため、妊婦健康診査助成を現行の2回から14回に拡大して、妊娠時にかかる経済的負担を緩和します。

(4) (仮称)あらかわキッズコール24

24時間、365日電話で妊娠から出産・育児に関する子育て全般について、専門家の相談を無料で受けられる子育て電話相談を開設します。

(5) 学校パワーアップ事業

確かな学力の定着・向上を図るために、「学力向上マニフェスト」を各小中学校で作成し、公表します。また、校長の予算上の裁量権を拡大し、各学校で行う創意工夫にあふれた教育活動を支援します。

(6) スクール安全ステーション

小学校5校をモデル校として、校門付近にスクール安全ステーションを設置します。このスクール安全ステーションを児童安全推進員、安全パトロール員、学校安全ボランティアの詰所として、また活動の拠点として活用して、学校や地域の防犯力を高めます。

(7) モノづくりクラスター形成促進事業

荒川モノづくりクラスター(MACC)プロジェクトでは、先導プロジェクトとして高齢者向け健康・福祉関連製品プロジェクトを推進してきました。20年度はこれに続く、第2弾の先導プロジェクトの構築を図るとともに、若手経営者・後継者の育成やMACCコーディネータの増員を行い、戦略的な産学連携の推進を図ります。

(8) 環境交通政策推進事業

CO2削減の取組における自家用車やトラックなど運輸部門で対前年度比1%削減に向けて、モビリティマネジメントやカーシェアリング、エコドライブなどの施策に取り組みます。

モビリティマネジメント：一人一人のモビリティ(移動)が社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策です。

カーシェアリング：1台の車を10から30人の会員で共同利用する仕組みです。

